



白紙撤回された
堺市の再開発区域

新町西とよく似た堺市の再開発 「ホール床は買わない」・・白紙撤回に

白紙撤回された大阪・堺市の再開発を一月三十一日、視察（市に聞き取り調査）しに行きました。そこでわかったことは、新町西再開発との類似点が多いこと、「新町西再開発の白紙撤回への道筋」が、一層鮮明になりました。

白紙撤回されたのは 堺東駅前商店街の再開発

南海電車の堺東駅前にある商店街 真向かいに、二十一階建ての堺市役所がそびえ立っています。再開発が白紙撤回されました。



右側が堺東駅

白紙撤回されたのは

「再開発にホール建設」案

「文化会館が老朽化したから、再開発のビル床を買って新ホールを建設する」



堺市役所

「新町西再開発と「うり二つ」の「理屈」で推進されていたのが、堺東駅前再開発（正式名称は堺東中瓦町二丁地区市街地再開発）計画」。

十三階建て再開発ビルの六階から十三階までがホールで、その下の階

にもホールのエントランスがある「再開発ビル」の大半がホールという計画でした。この点も「ホールが八割を占める新町西再開発」と、よく似た計画でした。

「事業を請け負うのは

大手ゼネコン」の計画

「新町西再開発と「うり二つ」は、再開発事業を請け負うのは大手ゼネコン（西松建設）」だった点 新町西再開発は、大手ゼネコン・竹中工務店が事業を請け負うことを決めて推進しています。



新町西再開発の場合、「徳島市民が『仕事がない』と苦しんでいる時、県外の大手ゼネコンの仕事づくりは止め、地元業者が請け負える仕事を増やしてほしい」という声が、市民の中に大きく広がっています。

新町西より進行していた

堺市の再開発事業

『新町西再開発』ですが、都市計

画決定されたのは一年三ヶ月前ですが、未だ、組合は設立されておらず、準備組合のまま推移しています。

『堺東駅前の再開発』の場合、都市計画決定されて以降、事態が進行「地権者の三分の二以上の同意書」を集めて『組合設立認可申請』を、新しく市長に就任した竹山氏（現市長）に提出していました（ゼネコンと一体で事業を推進してきたのは竹山現市長ではなく前市長でした）。

竹山市長の下した英断は

「ホール床は買わない」

計画は白紙撤回された

公開されていますが、堺市議会では、再開発やホール問題をめぐって、いろんな質疑が交わされています。

「再開発のホールは、文化会館の現地建て替えより百四十二億円も高い」「ホールの床を買うのはムダ使いになる」「二百十二億円もの市民の税金が



区域内のパチンコ屋



投入される」「ホールの下がパチンコ屋は問題」などの意見を受け、竹山市長が下した英断は「ホール床は買わない」。

この市長の英断を受け、『組合設立認可申請は、不承認』とされました。

「都市計画の線引きを無くして」

地元の要望で白紙撤回された

堺市が、ホール床を買わない」と再開事業は成り立ちません」というわけで、再開事業は中止されました

新町西再開発：市民合意が無い

「再開発ビルのホール床取得」は止めるべき

視察の中で、特に印象に残ったのは『堺市長の英断』です。「市民のための市政を行うのが市長の務め ムダなお金の使い方はしない」という竹山市長の政治姿勢です。一方、堺市と「うり二つ」の点が多い新町西再開発事業を推進する原徳島市長。就任早々発令したのが「財政危機宣言」。市民には「お金がないから」と全国一高い国保料や介護保険料を押しつけ、その一方で新町西再開発に莫大な税金(百二十五億円)を注ぎ込もうとする。こんな市政は止め、『堺市長の英断』に学ぶべきです。

文化センターを耐震リニューアルして長持ちさせ、その間にホール積立金(現在十六億円(原市政になって積み立て金ゼロ)を増やし、それを元手に将来、市民合意の旧動物園跡地に立派なホールを建設する

「新ホールは旧動物園跡地に建設す

る」ことを前提に、徳島市が事務局

た。

後に残ったの

は「都市計画決定の線引き」で

すが、このために様々な制約が

かかり、地権者

は不自由な目に

「この線引きを無くしてほしい」と

いう要望が出され、それを受けて

都市計画審議会が開かれ、再開事業は全て白紙撤回されました。



視察する私(左側)

になって市民会議を十四年間積み重ね、その「最終報告書」を、新しく市長になった原氏に提出していました。この



旧動物園跡地

「最終報告書」が「市民合意」です。

市民合意を突然踏み破り

新町西再開発のホールに変えてしまった「原独裁」

ところが二〇〇五年十二月一日、突然、徳島新聞の一面に「ホールは新町西再開発に」が掲載され、議会や市民を、アッと驚かせました。まさに「市長の独裁政治」これが、新町西再開発、事業の始まりです。

文化センターは

耐震リニューアルすれば

生まれ変わる

「文化センターは老朽化したから」と、新町西再開発のホール建設を煽るような新聞記事が出るなどして、不安の声が聞こえてきますが、事実上、文化センターは耐震リニューアルすれば生まれ変わる」です。

全国には、文化センターと同規模で、文化センターより古いホールが「十五」ありますが、その内の五ホール(米子市、今治市、新居浜市、

福知山市、八代市)が、耐震リニューアルで生まれ変わっています。

文化センターより五年も古い米子市のホールは「地震で倒壊する」と診断され二年間、閉館していましたが、現在十四億円で耐震リニューアル工事中 四月に再オープンします。

文化センターは耐震診断中

来年三月末に診断結果と

耐震工事費用が報告される

全国各地の例が示しているのは「どんなに老朽化しているホールでも、費用をかければ耐震リニューアルできる」ということです。

徳島市文化センターは現在、九百六十六万円の予算で耐震診断を行っています。その結果が出るのは一年後の三月末 『耐震診断の値(IS値)』と『耐震工事費用』が出る』と市議会で答弁されています。

「文化センターは、耐震リニューアルで長持ちさせるべき」です。

耐震リニューアルの費用は

再開発ホールの十分の一程度

全国各地の費用からすれば、文化センターの耐震リニューアル費用は十億円程度 新町西再開発ホール取得費の十分の一程度の予算で、文化センターを長持ちさせるべきです。